

慶蔵院寺報

# 公孫樹

2024年8月発行

第151号

浄土宗慶蔵院

伊勢市小俣町元町1211

TEL 0596 (22) 3726



慶蔵院の高塀

画 山寄淑子

## 映画ツアー、十二名が参加

「九十歳、何がめでたい」の映画におつねしますよ…と呼びかけさせていただいたところ、九十六歳の橋本さんが、一番乗りで申し込んでくれました。新聞が届いたその日の連絡でした。写経会に参加されている方にも声をかけ、一回目の日程を調整、林さんに運転してもらい、七名で鑑賞。その後申し込みのあった方と二回目、五名が参加。予定が合わずに自分で行かれた方、家族で行かれた方、身体の調子を崩して参加できなくなった方もありましたが、多くの方々にこの映画に関心を持ってもらい、年を取ることも悪くはない…、とどんどん元気に前に進め…と勇気と希望をいただくこととなりました。これからも良い映画があればまた呼びかけさせてもらいたいと思います。写経会のメンバーの一人が、お手紙を下さいました。ご紹介させていただきます。

先日の「九十歳何がめでたい」の映画会、ありがとうございました。(略) 草笛光子さん演じる佐藤愛子の数々のエピソードに笑ったり涙したり最後まで楽しみました。幕開けの場面、断筆をしてからのウツウツの日々でさえ毎朝新聞を読み、社会に興味を持って見ている姿も心に残りました。

近頃つくづく感じるのですが、戦争を生きた方々の生きる力強さ、頼もしさです。便利さがすぎる今、何も無い事からをしっかりとっているからその強さなのでしょう。映画に一緒にさせていだいた御年九十六歳の橋本さん、スタスタと私の前を歩いて行くその姿が行く末をやさしく照らして下さる菩薩様のような様子でした。そしてお昼に連れて頂いたカレー屋さんです。(略) なんだか皆で楽しく旅をしているような暖かい空気に包まれました。(略) (若原容子)

# 8月の行事予定



3日(土)～8日(木)	初盆参り	日時を申し込んでください
9日(金)～14日(水)	棚経参り	日程表をご覧ください
15日(木)	盆施餓鬼塔婆回向	午前9時～初盆のお家の 塔婆回向 午前10時～初盆家以外の 塔婆回向
21日(水)	健康教室 講師 馬場久美子先生 男性詠唱隊	午後1時～3時 参加費 500円 午後7時～
24日(土)	地藏盆 初盆精霊送り	初盆のお家の皆様 午後6時～ 本堂にて法要 午後7時～精霊送り 古塔婆等浄焚式 御供は、地藏堂に千円・本堂に千円を よろしく願います。
10日・24日(土)	絵画サロン 講師 山寄淑子先生	午後7時～8時半 一会館にて 参加費1回500円

## 8月の行事お休みのお知らせ

写経・戦没者慰霊・英語サロン・茶道教室・落語会は、お休みです。

## 聖徳太子の業績について

昨年、県博物館での「親鸞と高田本山専修寺国宝からひろがる世界」に行きました。そこに、聖徳太子の少年期の像が展示してありました。その眼光のするどさを感じ入り、聖徳太子のことを書くことと思いました。聖徳太子は存在しなかったと言っ話もありますがそれはおき、まず外交についてです。隋に使者を送って中国とも対等に付き合って行こうとしました。「日出づる処の天子、書を日没する処の天子に致す。つつがなきや」「日出づる処、日没する処」の表現は、方角を示し、仏典でも使われる言葉です。天子も仏法により統治する君主の意味であり、仏教によって国を治めていた隋の先進的な文化・政治を取り入れようとしたのでしよう。はたして今の日本の政治家や役人に、このような心意気のある人はいるでしょうか。また「和を以て貴しとなす」の一七条憲法の制定。冠位十二階の制定、四天王寺や法隆寺の創建、仏教経典の注釈書の作成や講義など、当時の世の中の混乱を仏教によってまとめようと努力していたと思われます。太子が仏教の教えに惹かれたのは、布施(人のために尽くす)でした。

世界秩序が根底から揺さぶられる激動の時代にあって、聖徳太子の思想の中にこそ、現代を生き抜く知恵やヒントがあるのではないのでしょうか。

(文 麻畑公生)



慶蔵院豆知識

15

## 戦争の記憶 ④ 私の戦争体験



毎晩九時ともなると、ブーンとB29が編隊でやってくる。「空襲警報」「防空壕に早くー」父の声。「死んでも良いから寝かしといて」と私。そのうち学徒動員で豊川海軍工廠で働く事になる。教員をしていた兄にも赤紙が来る。これを機に私は荷物をもとめて帰宅。父に手続きをして貰って父の実家安濃の農業を手伝うことにする。稲刈り、脱穀、井戸水での風呂用意、川での洗濯、今ではなつかしい思い出である。

いつの間の九十五才や朝ぐもも

(橋本みづ子)



## 第13回大正大学公開講演会

樹敬寺にて

10月4日(金) 開会 13時30分

講師 法相宗薬師寺 大谷徹装 上人

浄土宗新聞7月号に取り上げられていた大谷上人です。浄土宗の寺に生まれ、縁あって高田好胤和上の弟子となり17歳で出家。現在、執事長として仏法を伝えて全国を回っています。「心を耕そう」がテーマ。耕した心に仏心の種を撒いて育てて行けば皆が幸せになれる…と解きます。たくさんの方に大谷上人の法話に接していただきたいと願っています。いまから予定を空けておいてください。詳しくは9月号に入れるチラシをご覧ください

## と 住職の健康回復への道のり(30)

十三日のこと、椅子に座って講演を聞いている私を見た院長先生から指摘を受けました。「腰が前かがみになり、顔だけを挙げているから、首は後ろに折れ曲がり、血流が悪くなっている。疲れがたまっているのではないのか。その原因を明らかにしておく必要がある…」と。

疲れの意識がないのは失体感症か…。確かに腰は曲がっていたと思います。

十二日から信徒さんの七月盆の棚経参りが始まっていました。しかし、それだけなのか…。「前かがみ」の原因。

八尾に行きかけた二年半前に買った靴。かかとがすり減り、底が外れかけていました。当初びつたりりの靴でしたが足のむくみがとれて、靴下を三枚履いても、ごそごそになっていました。何力月もこんな状態を続けてきたことが、体に変調をきたしてきたのではなかったのか…と考えました。

家族揃って送りの火焚いて霊祭り

奥田 悦生  
(「知恩」八月号「柳檀」に掲載)

落語会「いちご亭」は八月はお休みです

次回は、九月十一日(水)です。

出演 法話 慶蔵院住職

落語 南遊亭栄歌

安楽亭東風



## 麻畑公生の「浄土宗新聞」見どころ・読みどころ



P.1 鐸声

一人暮らしの人が増え、孤独死を身近に感じている人の割合も増加している。その対策として地域のお寺に集まって「無縁社会」を「有縁社会」にと変えていく知恵を出し合おう。お寺のそばにみんなで暮らせるハウスを建てる…。寺まで来られなくても寺からお年寄りのもとに歩み寄っていく…。

P.9 「あの言葉に想う」

能楽師宝生和英さんが、「二つの道があるのなら辛く険しい方を選べ、その方が人間は成長する」また「信仰とは疑うことで初めて生きたものとなる」。良い言葉だと思います。

## 第7回慶蔵院 団体参拝バス旅行

9月4日(水)

慶蔵院 6時30分 出発

8時50分 円成寺

11時 昼食

12時30分 浄瑠璃寺

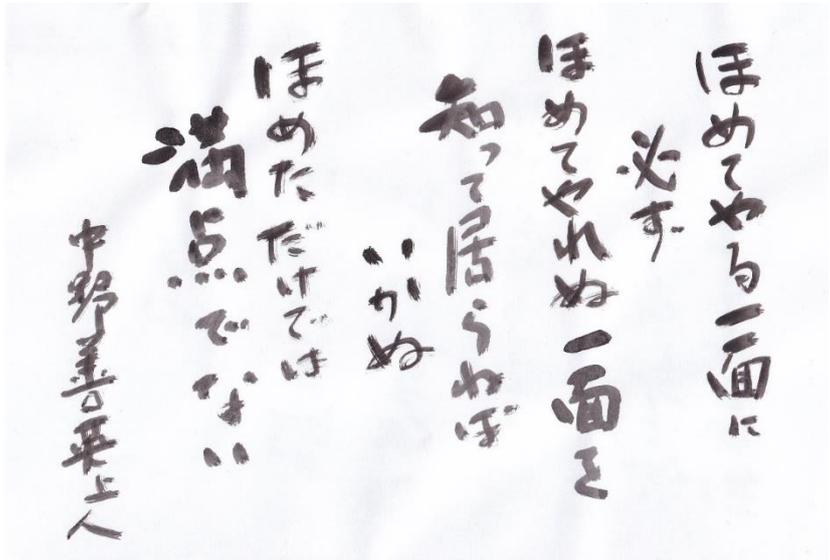
14時30分 吉田寺

慶蔵院着 18時10分頃

別紙の申込書にて8月10日までに代金を添えて申し込んでください。

旅行代金 12000円





「知恩八月号」読者の声」に投稿・掲載されました!!

浄土宗開宗850年慶讃御忌大会に合わせて伊勢教区・樹敬寺さまのお計らいを受けて、私の菩提寺である慶蔵院からも8名が京都の大本山清浄華院を参拝しました。歴代墓開眼法要に始まり、オペラ歌手の澤武紀行氏による開白オペラ公演「二祖対面〜源空の決断」を鑑賞。お庭では飯田台下による「南無阿弥陀仏」の大揮毫も迫力満点、感激致しました。夕食は京都市内のホテルにての祝賀会に参加し、名実ともに有意義な一日を過ごさせていただきました。ますますお念仏に精進したいとの思いを強くしました。

伊勢市

奥田悦生

山の神さん、願い結集し完成

堤防の下に祀られた「山の神」、小学校のころ、敷かれている白石を火打石のようにして遊んだ経験があるから、私にとっては昔からずっとここに祀られていたと思っていた。

ところが今年の正月明け、中村定一さんから相談を受けた。「堤防下の山の神に移転の話が出て数年になるが、移転先が決まらない。この山の神、祀られたのは寛政年間、二百五十年も前。もとは、慶蔵院の前あたり、今、駐車場になっているところに置かれていたらしい。諸般の事情で現在の地に安置されたものだが…。元に戻させてもらえないものか…」と、丁寧に、こちらが恐縮してしまうほどの依頼であった。

「ここにあったものが、お戻りいただくことは結構なこと。場所を特定して、そこをお使いください。」と応えたが、そこは駐車場の真ん中あたり。「東の隅で…」ということでもとまった。

「これまでは人間の都合で神さんが移転してきた。お戻りいただくことになったのだから、真ん中であろうと、元の場所にお座りいただいて、今度は、人間の方が遠慮したらいいのでは…」という住職の意見は少数却下となったのだ。

七月十二日、講の皆さん及び関係者、宮司さんを迎え、山の神移転の儀が厳粛に行われ、皆の願いが成就され、最後に榊の木が移植され完成にいたった。

それから数日後のある日の事、こんな話を聞いた。「朝早く、誰かが榊の木を刈りこんでいる。枝が小さくなってしまった。知らない人だ。こんなことをしたら榊が枯れてしまう…」というのだ。話を聞いてこのように話した。

「その人は山の神さんから使わされて仕事をしているのだ。この日照りの中、葉を刈り込まないと枯れてしまうと神さんが言っているのだ。その声を聞いて、その人は務めを果たしてくれているのに間違いない。おかげで榊は守られた。安心していい」と。

